

# 根域空気供給機の効果確認試験

JAあさひかわ

川合 乾士



①設置状況



②設置状況



③酸素水の保管場所



④作物の生育状況.1



⑤作物の生育状況.2

## 試験目的

根域空気供給機の効果確認試験

## 試験作物及び品種

きゅうり(ゆうみ・かねそなえ)  
ミニトマト(SC6-008 イエローミミ)

## 試験資材及び数量(規格)

ロッキイ

## 栽培方法

	定植日	収穫日
慣行区(きゅうり)	5月15日	慣行区(きゅうり):6月10日
慣行区(ミニトマト)	5月18日	慣行区(ミニトマト):7月12日

## 資材使用期間

6月中旬～10月末日

## 試験区面積

100～150坪

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

通常と異なる設置方法(通常の場合は、ハウス1棟に1つ設置するが、今回はロッキイを通してため池に水をため、全ハウスに供給する方法)だったが、問題なく設置することが出来た。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

設置後は肥料の吸収が良く感じた、来年以降の元肥と追肥の調整が必要になると感じた。

生育に差が出ているかは判然としなかった。しかし、生育後半は強い肥料に変えなくても肥料効果が得られた。

9月中旬になるときゅうりは尻太りという果形になるが、今年は少なかったように感じた。

きゅうりについては面積が同じで本数を減らしたが、約5%収量が上がった。

### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】:一年で効果は判然としませんが、根はりは良くなっていると感じた。例年きゅうりで低温障害が発生しているが今年については少ないように感じた。

### (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

圧力調整が必要。藻の発生が助長される。

### (5)促成・抑制効果について

今年については、肥料の吸収は良く感じたが、例年に比べ成長が特段早いということはない。

## モニター感想

肥料の吸収は良いと感じたが、単年度で結果を見られるような資材ではないと感じた。

次年度は水稻の育苗から効果を確認する。マットを

使用しているため、根張りが良くなったか確認してみようと思う。

トマトについては根張りが良くなり、吸収量が増えるようであれば元肥と追肥のバランスも考えなければならぬと感じている。樹勢を見ながら検討してみたいと思う。

資材の効果かどうかは判然としませんが、例年の低温障害が今年は少なく感じた。

次年度も継続して経過を観察する。

## JA担当者の感想(北野支所 深瀬店長)

生産者の感想通り、一年間で結果を見られるような資材ではないと思う。

しかし、肥料の吸収が良くなったと感じられたことから通年使用すると収量や生育にも影響するのではないかと考える。

生育後半、強い肥料に変えなくても肥料効果が得られたとの事でコストダウンが見込まれる。

次年度の状況を確認し、初期の根張りや生育・収量にプラスの影響があれば、他生産者に対して推進していきたいと考えている。

## 今後の使用について

継続して使用したい。

次年度以降の根張り、生育状況について引き続き確認し、ロッキイの正しい使用方法を模索していきたい。

## 将来希望する資材について

片付けの際に省力化を図れるマルチ(生分解性マルチでは高価なため、別のもので何か良いものがないか検討したい。)

- 1 高温対策
- 2 害虫忌避効果
- 3 調光フィルム
- 4 育苗トンネル
- 5 クリーンシート
- 6 マルチ
- 7 不織布
- 8 育苗資材
- 9 畝農資材
- 10 その他